

第4回旭川駅周辺かわまちづくり計画推進WG 議事要旨

日時：令和7年1月21日(火) 18:00~20:00

場所：旭川合同庁舎 東館1階 入札執行室

出席者：佐藤座長、鈴木委員、大黒委員、荻野委員、馬場委員、寺島委員、億貞委員、小原委員、川辺委員、谷口オブザーバー、山田オブザーバー 計11名

議題：前回WGの振り返り、施設設計、各事業の報告、次年度の取り組み、今後のスケジュールについて



1. 議題に対する意見

(1) 施設設計

[側帯]

- ・特に意見なし。(※基本合意)

[ツインハープ橋上流]

- ・実際にどの程度樹木があって、どの程度樹木が消失するのか、定量的な伐採範囲を示してほしい。樹木の配置や残存の検討が必要だと思う。
- ・カヌーの持ち運びやラフティングボートの移動は、木立の中を間伐すれば通れることもあるので、その辺りも合わせて考えてほしい。

[神楽岡公園]

- ・産卵床が作られる条件は複雑で、流れ、流速、その下の礫河床の材料、常にきれいに洗われる礫の状態が保たれるかが重要である。
- ・工事で流れが変わると、現状の産卵床の環境が大きく変わってしまうので、総合的に検討する必要があるのではないか。
- ・河道を掘削するなど改変すると、掘削箇所から土砂が流れて下流側でも流れ変わることがある。深みになっている箇所が埋まれば湧水箇所も変わる。魚のことを考えると、あまり流路に影響があるところは改変してほしくない。
- ・親水広場整備箇所はちょうど川の流れが直進してくる部分であるため、河道整正実施後も、将来的に維持できるかどうかの検討も必要だと思う。
- ・河畔林の枝払い、下草刈り、河床材料の維持といったきめ細かい維持作業を行う活動組織を作

り、ボランティアも含めてみんなで作業に参加するといった仕組みを作ることを提案する。

[JR 旭川駅南口]

- ・ カヌー、ラフティング、SUP 等のリバースポーツの観点から見ると、エディで反転流、緩い渦が作られるような形にしてほしい。エディのところは反転流なので、下流へ流されにくいなど安全性が高まる。
- ・ 右岸側に車が入れない状態でカヌーやラフトを上げたとしても積み下ろしできず発着場としては使えない。左岸側に自動車が入られる道路や駐車場の整備が可能なのか。又は JR 旭川駅南口は歩行者だけの親水空間にするということか。
- ・ 工事に伴う川の生き物や河畔林を含めた生態系への影響がどうなのか。
- ・ 護岸の形式は単調なデザインより変化に富んだ複合的なデザインがいい。
- ・ 教育活動の場として活用していく中で、安全性は非常に大事である。見栄えももちろん大事だが、子どもが川により親しみや自信を持って近づけるような視点も大事である。
- ・ 川の生き物や河畔林を含めた生態系や環境との兼ね合いが一体どうなるのか。まちづくり、かわづくりのために自然の川をどのように利用していくかの検討が少し欠けている気がする。
- ・ 整備する親水広場に対して、現状のサケの産卵床あるいは、河畔林の残置、生態系をどのように絡み合わせるのかといった工事計画の提案がなされないとダメだと思う。

[路面表示]

- ・ 特に意見なし。(※基本合意)

(2) 次年度の取り組みについて

- ・ 市立大学との連携との提案があったが、学生だけでなく子どもやいろいろな人たちの外での活動機会が少なくなってきたことから、本校ゼミとして、緑地協会のラフティングのボランティアをさせてもらってきたところ。将来的には、ゼミを超えた全学のアクティビティとして外に出て行って、地域を知ることによって保護といった観点から着想を得るところまで関わらせてもらえればと思っている。

2. 情報連絡・意見交換

- ・ 子どもたちへの教育だけでなく、我々の学習、そして、次世代への継承ということも含めて、この川を活かしていけるようなかわまちづくりにしていきたいと思う。
- ・ 川で子どもたちへの教育が盛んに行われるようになると水辺のルール、ライフジャケットの整備等、安全面も普及活動も必要である。
- ・ 現場を見ながら、樹木の伐採や河道整正についてみんなで議論し、進めてほしい。
- ・ 維持管理については、きめ細かい対応が必要なので何らかの仕組みを今後の WG の中で是非考えていきたい。

以上